

迫真将棋部。

名取クス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

Q. 『りゅうおうのおしごと』の世界に転生したら、なにをする？

A. 『迫真将棋部』を流行らせる。

Q. 『迫真将棋部』ってなんなんですか？

A. 将棋の試合に淫夢ボイスとかネタをちゃんぽんした今ニコニコで激アツの動画群ぞ。

目次

迫真将棋部	1
伝説の始まり	4
専属将棋調教大先生。	8
足を溜めて足を！	11
こちら『迫真将棋部』、世の中に打って出る。オーバー。	13
ソフトによるぎやくた…指導を受けてきたうP主だ。面構えが違う。	16
『桜花戦』	19
【朗報】棋界きつての期待の新人現るW【やべーヤツ】	23
『ライバル』	29

迫真将棋部

Q、「りゅうおうのおしごと!」の世界に転生したら何をやる?

A、「迫真将棋部」を流行らせる。

当たり前だよなあ。

という事で『りゅうおうのおしごと!』ワールドに転生した俺は現状を確認するためにパソコンを買ってもらい先輩達の芸術的ガバと洗練され尽くした切り返しが楽しめる動画を拝見しようと思ったのがこれが酷い。

「検索ヒット件数…ゼロ!?」

無常に画面に映し出される「お探しの動画は見つかりません。」

つまり、先輩部員／zero。

という事は将棋部期待の星、絵師兼部員『色硬筆』兄貴、ドアノブカバーを被った狐でお馴染み『MLT』兄貴、迫真将棋部創設の原点にして頂点『猪兄貴』さえ、いない…?

ウツソだろwww

いや、まだだ。

俺には奥の手がある。

俺の転生特典は『迫真将棋部』。

迫真将棋部のみんなが積み上げてきた歴史は、全てこの頭に入ってる。

なら、また始めればいい。

誰かが続く限り、『迫真将棋部』は不滅!

先駆者兄貴はいなくても、俺はやるよ!俺はやるよ!

だから、できれば俺の投稿した動画で笑ってくれよ。

それが俺なりの最高の兄貴たちへの恩返しになるはずだ。

さあ

間抜けなガバに笑い

及ばぬ負けに奥歯を噛みしめ、

ギリギリで掴んだ勝利に拍手する時だ。

俺が、俺たちが『迫真将棋部』だ!

流行らせコラ！



私は息子が心配だ。

昔から将棋が大好きで、小学校に上がった途端にパソコンをねだるようになった。

最初は抵抗があった私達夫婦だったけど、とうとう折れてお誕生日の日には買ってあげた。

今までずっと聞き分けが良い子だったのに、急にワガママを言うようになって安心して面もあった。

「たまのお願いくらい聞いてあげるか。」

夫もそう言っていたし私と同じ意見だったみたいだった。

箱から無骨な真つ黒なパソコンを取り出した時、息子は心底嬉しうにはしゃいでいた。

買って良かったと思った。

息子は次の日からさつそくパソコンをいじるようになった。

何をしているか画面を覗くと、オンラインでひたすら将棋をしていた。

息子がパソコンにのめり込みすぎる心配があったけど、やっぱりうちの子は聞き分けが良かった。

私の言いつけはいつもきっちり守って、パソコンを使っていた。

その上で私は不安だった。

息子は友達をあんまり作らない。

どっちかと言うと、作れないのかもしれない。

将棋だけが友達みたいだった。

そして息子は時々突拍子もない事を言う。

それは、小学3年生の12月。冬。

息子が改まった感じで私に言った。

「俺、桜花戦に出たい。」

桜花戦は、将棋の7大タイトル戦に次ぐ新しい準タイトル戦として新設される、アマからプロへのチャレンジマッチの意味を含んだ将棋の試合だ。

勝つのは難しいかもしれないが、せっかくならそこで知り合いとか友達とか作ってこないかなあ、ぐらいの願いを込めて私は快く領いた。

そして息子は新準タイトル初王者のトロフィーを持って帰ってきた。

私は顎が外れた。

伝説の始まり

その日、棋界に衝撃走る。それも3度。

一つ、

アマプロどころか、将棋の地方大会に出た記録さえもない棋士が、新しいとは言えプロ^{ひし}犇めく魔境で対戦相手を千切っては投げ千切っては投げの快勝で準タイトルを搔^かつ攫^{さら}っていったのだ。

二つ、

将棋界のいける伝説、名人。

別名『神』が名もなき棋士の前に破れた。

それも無名の棋士に。おまけにその棋士は小学4年生だった。

三つ、

名人が投了したのは僅か52手

名人とじっくりがっぷり攻め合い長い長い戦いの末、名人を破った猛者は少ないが確かにいる。

しかし、これは、この52手は、明らかにそれとは一線を画す棋戦であった。

余りに早すぎる決着は、おそらく名人のいかなる棋譜を調べてもこの上ない短手数だった。

たった数日で瞬く間に轟いた小さな棋士の名は「滝ヶ原^{たきがはら} 前^{まえ}」。

小学4年生にして、『桜花』を冠する準タイトルホルダーである。



今の私には敵がない。

七冠達成でタイトルを独占したあの日から。

名人という呼び名に意外に、『神』の異名が加わり始めるとそれは一層強くなった。

淡々と試合に望み、当然のように勝つ。

熱い駒と駒のぶつかり合う音が絶え、ひどく機械的に駒が処理されていく様はいつそ寒々しいものすら感じてしまう。

それでこちらに噛みつき返してくれる手合いもおらず、少なからず失望してしまう。

ゆえに、私は後進が育つのを待った。

全力で、全身全霊でぶつかれる『天才』の出現に期待した。

しかし、待てど暮らせど好敵手は姿を見せなかった。

一方でライバルは減るばかりで、月光9段も将棋連盟会長として実戦から足を引いた。

やはり今の私に敵はいない。

そう思った私は未知なる相手との戦いを求めた。

そして動き出した『桜花戦』。

積極的にアマチュアなどの参加を煽るべく、必要な事前資格無し幅広く開かれた新設されたばかり準タイトル戦。

その本戦で出会った。血肉踊る一流の棋士に。

小さな小さな、盤上の騎士。

名前を『滝ヶ原 前』。

師匠もいない、ただ自前の才能のみで並み居る敵を引き倒してきた小学4年生。

対局にはもちろん、いつも本気で望んでいる。

しかし、どこか『諦め』があったのかも知れない。

敵がない、現れないと言う『諦め』が。

今の私に敵はいない、その無意識の驕りを打ち砕いたのは対局開始からわずか20手目だった。

対局では私が先手番だった。

私はまず金を角のそばに置き角道を開けた後、飛車先の歩を伸ばすとあちら側も角道を開け金を角のすぐ右につけたのち自陣の飛車先の歩を進めていた。

私の飛車先の歩が相手の角前方の歩に打ち付けれる。

もちろん相手も私の歩をとるが、私も前進した相手の歩を飛車で取り返す。

完全に『横歩取り』の戦型である。

横歩取りはとにかく変化が複雑な事で有名だ。

私は相手がどう打開するかを観察した。

しかし相手は構わず自分の飛車先の歩をこちらに進めていた。

私も、先程彼がやったのと同じように角頭の歩で相手の歩を取る。

相手の飛車も私と同じように飛び出した歩を飛車で取る。

まねっこ戦法を取られているようだったが、私は構わず飛車を一つ

横に動かして『横歩取り』。

ここで彼の角が私の角に突撃、私は銀で敵の角を打ち取り角交換の形となった。

そこで相手も横振りと思いきや、歩を私の陣に打ち込んできた。それも私の飛車がいなくなつた。銀の目の前の地点。

少し変化を考えたが、何も見当たらないので銀で『叩きの歩』を取り返す。

そして運命の20手目がやってきた。

彼の小さな手が再び駒台に伸びる。

掴んだのは角、打ち込んだのは私の横歩をとつた飛車の左。

4四の地点。

見た事の無い、異次元の角打ち。

このまま放置すれば打ち込まれた角に自陣を乱され攻め駒を与えてしまう事になる。

私は再度角交換を要求、相手の角道の途中、ちょうど桂馬で取られても取り返せる場所に角を配置。

彼も迷わず交換に応じた。

再び彼の角が私の角に殴り込み、私の桂馬がそれを轢いた。

そして元々私の桂馬が居座っていた場所に彼の角が打ち込まれる。

鳥肌がゾクリと立つ。

この時私は初めて私の失策を悟つた。

この前ではどうあがいても私の形勢不利になる。

最悪、後3手で詰む。それもただ飛車取りを避けただけで。

私は長考に入ったが、有効打が思いつかぬまま持ち時間が溶けた。結局私は思いつく限りの最善手で応戦を始めたが、敵の飛車にも突っ込まれ角の効きと絶妙に開けられた自陣の隙を突かれわずか52手目で詰みとなり、投了した。

私は敗北した。

強引な、それでいて洗練された細かい攻めに私はやり込められた。しかし気分は晴れやかだった。

まだ私の知らない将棋を指す者がいる。

それだけで、胸の真ん中から熱くなる。

鮮やかな負けへの興奮と久方ぶりの胸の昂りを持って余しながら私は将棋会館を後にした。

「必ずリベンジしてみせる。」

まだまだ将棋の世界は奥が深いようだ。

将棋の未来はどうかやら明るそうだ。

専属将棋調教大先生。

迫真将棋部流行らせRTA、はーじまーるよー。

パソコンを手に入れて取り敢えず将棋動画が投稿出来る様になったところで

はい、よーいスタート(棒)

伝統に則り自称はホモ君に設定。学校はもう始まってピカピカキラキラ1年生。

まずは棋力確認の時間ゾク。

ついでに棋譜もとって動画の肥やしにするゾ。

さつそくオンライン将棋ゲーム、『将棋王』をインストール、立ち上げてさつそく始める。

初めは誰でも30級から、1戦目のお相手は30級の方。

オツスお願いしまーす。24-17歳、(小)学生です。

ここは王道を行く、『四間飛車』+『美濃囲い』

相手の陣地を乱しつつ、自分の陣地は傷つかず。

いいぞく、コレ。

ん？相手は角道を開けてきましたね。

角くんがじつとこちらを睨んでいます。

関係ねえんだよそんなの。

四筋に銀と歩をすうずるっ混んでやると、相手と自分で銀と歩をお互いに取り合い、交換し合ってそこにワシの飛車が突っ込んで敵陣に

成り込み、ああ〜気持ちいいぜ！

特に見所さんが不在、じゃけんカット、そのまま押し切り勝ち。

やったぜ！

投稿者変態クソ土方：ああ、そういや録画してないないぜ！

ガバは盤外にアリ！はつきりわかなだね。

とりあえず素の棋力でも初心者は倒せそうゾ。

とにかく次の局！

ホモは勢いが大事、それ一番言われてるから。

ちようど空いてたところに相手きましたねえ(激寒)

16級アニキちつすちす。

ゲーム《対局開始!》

おっすお願いしまーす。画面録画もヨシ!

指し順は…また後手だ!まあた後手だあ!

おっと心の中のピネガキが。

(暴言厨は) 辞めようね。

お、いきなり仕掛けてきましたねえ。

相手から見て左から4番目の歩を進めました。

タツプミスを思わせるその歩を「タダですよコレエ」と自角で取っ
てしまうと後は大混戦。

「困りましたねえ、後藤さあん」な展開になるのが見える見える(予知)

その戦法の名前は「バツクマン」

餌にパクつと飛びついたが最後の奇襲戦。

初心者殺しのハメ手代表格。

ふっふっふ。

しかし今回に限ってそれは失策です。

なぜなら…

ホモ君はねえ、君みたいなB級戦法を狩るのが大好きなんだよ!

さあ、恐怖のパクツクマン解体ショーの始まりや。

――

――

負けましたあ。

オカシイダロオオ!??

なんであそこから負けてんだよ。

作戦勝ちして普通に棋力で押し負けるとか、ええ(困惑)。

こんなくないすんの。

『ボナンザ的に言わせてもらおうとお、悪手しかさせないんですか
ねあ。』

脳内に直接!はっ、まさかこの声は!

ボナンザ先生!

『3手詰め将棋からやり直しピヨ。』

ピヨ将棋師匠！

『若い、若いのを。しかし、シゴキ甲斐はありそうじゃな。』
棋神解析大先生！

それにまだまだ沢山

もはや人の勝てないと言われる将棋ソフト達！

みんな、みんなここに。

そうか、『迫真将棋部』はただガバツたり勝つたりするだけの将棋部
じゃない。

大先生達の最善手指導やら詰み残しチェック、感想戦があつてはじ
めて完成する。

ゆえに、迫真将棋部員の側にはいつも彼らがいる！

迫真^{おれ}将棋^{たち}部を磨いてくれる。

だから、俺たちはきつと最速で進んでいける！

そして俺の転生チートは『迫真将棋部』！

最初からその中にいたんだ。

『ワシら是对局中は何もしてやれん。せいぜい反省会でお前の悪手を
咎めるぐらいじゃ。勘違いはするでないぞ？あくまで指すのはお前。
お前自身なのじゃ！』

道筋は見えた。ならば後は踏み出すだけ！

目指せ迫真将棋部、棋界制圧

目指せ最強魔王、九頭竜八一竜王 討伐

「見とけよ見とけよ。迫真将棋の底力！」

足を溜めて足を！

『迫真将棋部』の能力のうち一つが分かったところで本来のスキルも使っていくゾ。

ちな今『将棋王』は120連勝で5段に昇級したよ。

将棋無双でF00→気持ちい。

『む？・粹がった若造は叩き潰さないとお。』

フアツ!!?

アイエエエ！キシソカイセキセンセイ!!?キシソカイセキ、ナンデ!!?

『お主の中にいつもあるのじゃから、いい加減慣れたらどうじゃ。』

『そもそもお主が今勝っているのはお主の力ではあるまい。』

流石ですねえ（名推理）

とうか当たり前、俺の独力じゃそこまで勝つ事はできない。

タネはもちろん、転生チート『迫真将棋部』ぞ。

『迫真将棋部』の能力は『迫真将棋部の全て』

その本来の力は迫真将棋部部員全員分の棋力を借りられる事。

これによって俺の頭の中には実質地球コンピューターが入ってる。

はえ、すつごい（野獣邸）。

こうでもしないと素人がいきなり有段者をバツタバツタ薙ぎ倒せるわけないだろ、いい加減にしろ！

使った時の、頭の中が一気に広くなっていく感じはもうたまらねえぜ！

これだけでも十分強いかもしれないが『俺専属将棋調教師達』によるとこれで勝っても意味はなく、俺自身の棋力を伸ばさないといけないとの事。せっかく性能の良いパソコンがあっても使い手がダメだとパソコンもダメになるらしい。しょうがないね。

じゃけん有段者にフルボッコにされましようねえ。

終わったら、大先生たちに反省会でフルボッコにされましようねえ。

あー逝きそ。

あつ、待つてそんな所に飛車撃ち込まれたら（穴熊）壊れちゃう、

お兄さん許してえ、アツツ（絶命）

『…今回の反省会はちと長くなりそうじゃな。』

許して♡

『諦めるピヨ』

『ボナンザ的には後ろつかえてるんで早くしてもらっていいですか？』

『e10mだからつてe10m囲いしかできないと思つたら大間違いなんだぞ！』

『とりあえずなんか書いとけ。』

神は死んだ。

あつ、そうだあ。（思い出し）

動画作成も始めたんすよお。

暇あらばピヨ将棋先生から15手詰め100本ノックが飛んでくるんですよ。10秒将棋で。

今日もスツゲくきつかったゾ。

もちろん編集は『迫真将棋部』で補正しながらしてるぞ。

（じゃないと見れたものじゃ）ないです。

でも投稿はまだしてないゾ。

2年生に上がるまでは、そんなことより兎に角指して良い棋譜を取り付け解説できるだけの棋力をつけろと先生陣が言うので。

迫真将棋部を流行らせると言う至上目的をそんな事…ええ（困惑）先生達が言いたいかも分かるし、まあまあええわ。

将棋にせよ、動画にせよ、今はスキルを磨く雌伏の時や。

ジャンプするためには足を曲げて力を溜めろつて、それ一番言われてるから。

『そのいきピヨ。ついでに面白い31手詰めがあるけどやるピヨ？』

救いは、救いはないんですか…!!

こちら『迫真将棋部』、世の中に打って出る。オーバー。

F o o O → 去年は詰め込みの年でスツゲーキツかったゾ。

頭の中でひたすらピヨ将棋先生やら激指先生やらの『詰めるクイズ』が気づけば27手詰めとかに変わった。ああ〜気が狂うんじゃない。

他の先生方とはどうしてたかって？

ひたすら『序盤の定跡』とその変化についてやってたんだよ（キレ気味）

パターン多すぎて（1年じゃ）少なすぎい。

気づいたらもう2年生になってました。

ともかく、『詰め』と『序盤の定石』はある程度はできるようになったぞ。先生陣からも終盤の棋力は有段クラス認定されて、心がびよんびよんするんじゃない。

なおそれまでに敗着かます模様。

そしてどうとうアレが出来る様になった、いいぞ〜コレ。

何がって？それなもちろん、ナニですよ。

と言うわけで行きますよ〜イクイク。

システム《投稿しますか？》

もちろん、イエスだ。

システム《正常に動画が投稿されました。》

やったぜ！

投稿者、変態ホモ小二 4月2日 7時24分。

初回だから選びに選んだ会心譜を動画にしたぞ〜。

あつ、負け将棋と反省会も入ってるから負け試合警察もにつこりや。

もちろん投稿サイトは、ワラワラ動画。

伝統は守るもの。

：まあY o ! t o b e にも投稿したけど『迫真将棋部』の売名が今

は一番だししようがないね。

語録盛り沢山やし、頑張つて勝利敗北エフエクトも付け足し、ええやろ。

ゆつくりボイス入れられなかったのは、ユルシテ、ユルシテ。

まだ開発が進んでないのかボカロもたけーんじや。

6万円とか小学生が払えるわけないだろ、いい加減にしろ！

でも実況ボイスないのはさすがに許せへんし、

しょうがないからワイの生ボイスで実況することにしたぞ。

ウレシイダロオオ？ 嬉しいと言え（豹変）

まあまあ、あくまでボイロ輸入するまでのツナギなんで許してクレメンス。

でもとりあえず今は『迫真将棋部』が世に出た事に浸っているぞ。

『迫真将棋部』、出航じゃーい。



114時間514分後。

数字伸びてない、おまけにコメ欄閉店ガラガラ素寒貧。

あれれ、おかしいね。

…

……

……………

伸びない。マジで伸びない。

いやまあ？

最初から伸びるなんて期待してないし？あんだけエフエクト書いたり、声当てたりして頑張ったわりにこれかよとか思っていないし？アゼルバイジャン？アイアンマン？

『若いの。』

グサ（迫真）

いやまあ落ち着け。暴れんなよ、暴れんなよ。

コメは比較的いい感じだし、まだ4日目だし、これからも投稿していくし。

歩だつて進めば金になる。じゃけんコツコツやっていかんとねえ。

週一投稿ぐらいのペースで、頑張るぞい！

『そうやって家で作業ばっかりしてるから、母親から心配されるんじゃない。』

グサグサグサ

ソフトによるぎやくた…指導を受けてきたうp主だ。
面構えが違う。

半年たつてようやく一つの動画の視聴数が1000を超えたし、毎回視聴数もじわじわ伸びて、いい感じじゃないですかなあ？これえ。思うにこれ少ないながら固定客もとれてきたんでしようね。

毎回400はすぐに越えるようになってあ”あ”ゝ気が狂うほど気持ちええんじや！（変態糞土方）

そんなワシ、8歳小学2年生、には3つ悩みがあるだよねえ。

KB何のことか、分かりますよねえ。

金！暴力！せっかくなので赤い扉を選ぶ。

…こほん、金！爆発力！スキル！

ボイロを動画に入れて再現性をあげなきや。（使命感）

視聴者が真似しやすいようにしないとねえ。じゃけん（本家に）寄（せ）る。

それに伸びてるのは伸びてるんだけど、なめくじ速度なんだよなあ。みつを。

新規部員をドバーっと増やす一手、どっか落ちてねえかな。

将棋連盟公式《ありますあります。》

《まずうちさあ、来年の春から新しい準タイトルマッチやるんだけど、やってかない？》

やりますねえ！やりますやります。（水を得た野獣）

賞金も出るみたいだし、全部解決できてるぞ！やったぜ！

『優勝できれば、と言う枕詞がつくがのう！』

クウーン。（子犬）

『大会は来年の4月、ちと厳しいがそれまでにはまとも将棋ぐらい打てるようにしてやるぞ。』

『『俺たちの出番（ピヨ）（だぜ！（なのね）（ry…』』

専属将棋調教師おおスギイ！

今に始まった事じゃないか。（）

とりあえずの目標ができて、イイゾコレ。

『明日からはワシらと徹底した対局付けじゃな。』

ひたすら対ソフト指しとか、壊れちゃう〜。

『安心せい、破壊は再生の始まりじゃ。踏ん張るんじゃぞ!』

棋神解析? 鬼神壊責の間違いだろ (震え声)

『俺も仲間に入れてくれよ (2面指し)』

『僕もしゆる〜 (3面指し)』

(1人でも勝てないのに) 3人に勝てるわけないだろ! (絶望)

『馬鹿野郎お前、お前が勝つんだよ! (迫真)』

しやーない、イグゾオオオオオオオオ!

『それは悪手じゃ!』

おえ!? (激痛の一打)



〜予選大会当日

ヤベエよヤベエよ。

周りがかい大人ぶつかでコエーよ。

アナウンス 《それでは対局を始めてください。》

「お願いします。」

振り駒は…先手。(幸先) ヨシ。

一手目は、王道を征く角道開けから

相手の一手目は、中央の歩。

そのまま角も開け放て、これは

『ゴキゲン中飛車じゃな。』

敵飛車へウキウキなのら〜。

あー、ここ進研ゼミでやった所だ〜。
ソフト式スパルタ教育

対抗系は丸山ワクチン、相中飛車とか。どうしよっかな〜。

どうせなら、全力で攻め合おうぜ? (ねっとり

玉頭金上がり。

『5八金右超急戦じゃな。』

急戦には急戦をぶつけんだよ！

ほら来いよオラア！

これの何が気持ちいいって、敵中飛車とど真ん中で睨み合う桂打ちよ！

飛車封じには歩頭の軽！先駆者兄貴が動画で言ってたしまちがいないゾ。

連綿とつなげられてきた『迫真将棋部』の力、見せてやんよ！

『ソフトによる厳しい虐待並のボロクソ将棋を乗り切ってきた男ピヨ。面構えがちがうぴよね。』

弱い俺でも分かる事がある。

お前は、ソフトより、明らかに弱い！

だから、ソフトに挑んできた俺が俺自身の努力の力で、振じ伏せる！



【桜花戦 地区予選大会優勝】 『滝ヶ原 前』

ほら、見ろよ見ろよ！（歓喜）

全勝できて気持ちいい。

あと数日後には本線のトーナメント表が出るんですよねえ。

待ちきれねえぜ！（よー早漏ー）

目指せ、『初代 桜花戦タイトルホルダー』！

↓ 数日後

ファッ!? 2回戦目の対局相手『名人』？

『桜花戦』

敵飛車へおいゴラア！降りろ、免許証見せろ！

自陣へちよつ、おま、何勝手に入り込んでんだ。

『桜花戦』、本大会一回戦、もう独力じゃ太刀打ちできないレベルになつてきたゾ。

『お主だけでは、もうきびしいかのお。』

『当たり前ピヨ、相手は奨励会有段クラスピヨ。ちよつとやさつとで揺れる相手じゃないピヨ。』

俺は諦めて転生チート、『迫真将棋部』の封を剥がした。

『迫真将棋部』へ出、出ますよ。

『迫真将棋部』へほらほらほら、もつと玉を突き出して！」パアン
敵陣へいたあい、いたあい、いたい痛い。

『迫真将棋部』へ Yo！ (王手をかける音)

敵陣へ痛いんだよお!! (合い駒ガード)

『迫真将棋部』へ ヤメロオ (建前) ナイスう (本音)

敵玉の退路封鎖からの王手の桂うち。はえく、いい味付け(さした本人)

敵玉へああ逃れられない！

「負けました。」

ここでお相手の投了。

ふうく、気持ちいいく。(補助無しで)もう一度、やりたいぜ。

そして次のお相手は、当然、名人。

天下無双の天才棋士。

いける伝説のお相手できるなんて、ああくタマラねえぜ！
ビビつてもしょうがねえ。

気合い、入れて、イクゾー！ (デツデツデデ、カーン)

いざ対面すると、やっぱ『名人』はちげえなあ。

なんかオーラすごくてつよそう (小並感)

「お願いします。」

デュエル開始いいいい

せっかくの機会なんで、『迫真将棋部』、全力解放で行くゾ。
序盤は親のよりみた角道開けに、飛車先延ばしから。
ん？これ戦型『横歩取り』になりそうゾ。

どうなるか分からない混沌とした試合になる未来が見える見える。
あっそうだ（思いつき。）

せっかくなんで、先輩迫真将棋部部員愛用の戦法で、イキマスヨ
イクイク。

名人の飛車が横歩を取り、『横歩取り』が始まった。
もちろん俺らは抵抗するぞ？四角戦法で拳で

素の棋力が部内でもトップクラスと謳われた大アピール兄貴！借りるぜ！

敵飛車先歩へデトロ！開けロイト警察だ！

味方角頭歩へお前を殺す（デデン）、同歩

敵飛車へピンボーン、飛車でーす。

味方飛車先歩、へ関係えねんだよそんなの。突入。

敵角頭歩へ帰って、どうぞ。同歩

味方飛車へウイイイス、どうもお飛車です。（突撃）

ここまで全く同じ事してますねえコオレワ。

真似っこ戦法は必ず後手が負けるんですがそれは…。

敵飛車へ（歩は） いただいでいくぜ。（横歩取り）

と言うわけで、

味方角へお前の事が好きだったんだよ！（敵の角取り

敵桂馬へなんだあこのおっさん（角交換）

そして俺は、さっきまで敵の桂馬が居座っていたところに容赦なく
角を打ち込む。

味方角へそれじゃこんなのはどうですかあ？（ねっとり）

敵陣へいたあい痛い痛い！

名人の手が止まる。止まっちゃったねえ。

金銀で固めてくるが、

ワシへ突っ込めって言ってるの！

味方飛車へ敵金と交換とかいい加減にしろ！
ワシへつべこべ言わずに逝くんだよお！

敵へ金飛車交換で、うん、美味しい！

味方角へ何休んだよ！

敵玉のコビン(玉の斜め前)、そしてちょうど銀の手の届かない銀の腹這いにつける。

味方角へ飛車もらっちゃいますよ？

あつ、これ名人も気づいたっぽいですねえ。

飛車取り避けたら即詰みありますねえ。ありますあります。

敵玉へやだコワイ、やめてえ(敵前逃亡)

ワシ・金打ちへ敗北主義者だ！殺せ！

必死はかかっている。

「…ありがとうございます。」

10分ほど粘って考えた名人だったが、最後には潔く負けを認めた。

将棋はかなりの場合、『研究量』がもの言う

相手の『研究』を外すために、普段差し慣れてない手を指す事がプ

口間でもざらにあるぐらいに。

おそらく『名人』は、このハメ手を多分知らなかった。

だから、対応が後手後手に回った。

そして『名人』とまで呼ばれる人間が知らないと言う事は、この戦

法は多分この世界初の仕掛けだった。

それでも『名人』は、食い下がった。初見殺しに咄嗟に切り返そうとした。

『名人』はどこまで行っても『名人』と呼ばれるだけの人間だったのだ。

ここまで真面目に喋ったし、もう戻っていいよね？

やったぜええええ！

Fooooooooo!!!き”も”ち”い”い”く

ああ、タマラねえぜ！

やっぱ『迫真将棋部』は最高や！

こうしてワシの名前が『桜花戦初代優勝者』に刻まれたんや。
あー、いいすっね。

【朗報】棋界きつての期待の新人現る W 【やべーヤツ】

1：名無しの将棋指し

『滝ヶ原 前』って知ってる？

2：名無しの将棋指し

小3にしてプロ棋士斬りしていくやべー奴。

3：名無しの将棋指し

アマチュアのまま準タイトル獲ったやべー奴。

4：名無しの将棋指し

あの名人相手にRTAかましたやべー奴

5：名無しの将棋指し

どうあがいてもやべー奴で草。

6：名無しの将棋指し

そりゃあ、だって…ねえ？

7：名無しの将棋指し

名人相手に52手は明らか異常。

8：名無しの将棋指し

唯一安心できるといえば名人が人間だって分かったこと。

9：名無しの将棋指し

最近まで人間だと思って無かったのかよww

10：名無しの将棋指し

そりゃあ、だって…ねえ？

11：名無しの将棋指し

現時点でタイトル総計80期、一時は7冠独占したヤベーやつよ？

12：名無しの将棋指し

もう何年か待てばタイトル総計100期超えも拝めそう。

13：名無しの将棋指し

きつと見れる（確信）

14：名無しの将棋指し

>>>13 ワイトもそんな気がします。

15：名無しの将棋指し

やつぱり名人半端ねえわwww

16：名無しの将棋指し

じゃあその名人を振じ伏せた小3って…

17：名無しの将棋指し

18：名無しの将棋指し

19：名無しの将棋指し

20：名無しの将棋指し

もう間違いなく、ヤベー奴

21：名無しの将棋指し

ヤベーテスト

22：名無しの将棋指し

K I N G of y a b e e e

23：名無しの将棋指し

今年のヤベーオブザイヤー ノミネート間違いなしやなww

24：名無しの将棋指し

>>>23 正直めっちゃ見てみたいww

25：名無しの将棋指し

それにしても小3かぁ。ワイとかカブトムシ追いかけたなあ、その時。

26：名無しの将棋指し

ワイ将、小3にしてトレカにハマる。

27：名無しの将棋指し

>>>26 なお相手はいない模様。

28：名無しの将棋指し

>>>27 あっ：（察し

29：名無しの将棋指し

>>>28 ウツ、アタマガー

30：名無しの将棋指し

所でおまいら、この動画知ってるう？

<https://www>

【迫真将棋部『対横歩取りの裏技』】

31：名無しの将棋指し

>>>30 あー、これね。

32：名無しの将棋指し

>>>31 なんぞこれ、情報クレメンズ。

33：名無しの将棋指し

>>>32 名人と例の小3の試合をクソ丁寧^gに解説した動画だ
g r k s

34：名無しの将棋指し

>>>33 なお、教えてくれる模様。

35：名無しの将棋指し

>>>34 しかもご丁寧に古今東西のネットミームが詰め込まれたカオス将棋動画ゾ。

36：名無しの将棋指し

無駄に高度な無駄のない才能の無駄遣いって感じ。

37：名無しの将棋指し

>>>36 言えてるw w w

38：名無しの将棋指し

>>>36 解説はすごく詳しくて分かりやすいのに、それ以上にネタに走ってるw w

39：名無しの将棋指し

ちなこの動画の投稿者『滝ヶ原前 説』が今濃厚。

40：名無しの将棋指し

フアっ!?!?

41：名無しの将棋指し

ピュアピュアな小3がこんなクソ汚い編集するわけないだろ！いい加減にしろ！

42：名無しの将棋指し

でも、本人じやなきや『滝ヶ原vs名人』の戦いをあんなに詳しく解説できるわけないんだよなあ。あの四角、滝ヶ原新手って一部で言われとるぐらいやし。

43：名無しの将棋指し

まさか、ありうるのか？

44：名無しの将棋指し

どうなんやろうな。

45：名無しの将棋指し

今はもうゆっくりだけど、昔は生声実況だったんだよなあ。

46：名無しの将棋指し

でも、それが『桜花戦』優勝インタビューの時の声と一致するかと言われれば怪しいわけで

47：名無しの将棋指し

結局分からず仕舞いかよ。

48：名無しの将棋指し

検証班仕事しろし

49：名無しの将棋指し

>>48 ならお前が検証すればいいだろ！

50：名無しの将棋指し

>>50 将棋の勉強も兼ねて過去の動画も見てみるか！。

『ライバル』

俺の、九頭竜八一の師匠は清竜鋼介九段だ。

だけど、もう一人俺には師匠がいる。

いや正確には俺が勝手に師匠呼びしている人がいる。それも心の限定で。

「この場面で八一がやったみたいになんかどうとるでしょ？するとここに歩が突っ込めるようになってそれを自陣の銀でカバーしようとするとか、交換した飛車を打ち込まれるスペースを作られるようになるよね？この変化があるから八一指した手じゃ悪くなるんだ。」

それが最年少準タイトル保持者、『滝ヶ原 前』だ。

「こういう時は、先に歩を突き捨てて、相手の負の後ろに歩を置いて攻めの拠点を作るんだ。」

俺が滝ヶ原を密かに師匠と呼ぶのはこれが原因だ。

俺と滝ヶ原が指し合った後はいつもこうなる。

滝ヶ原から俺への一方的な感想戦。

俺からは滝ヶ原に言う事はほとんどない。

だから俺が質問ばかりで、俺の悪手の指摘ばかりで。

それはもう、感想『戦』なんかじゃなくて、それこそ――師匠が弟子にそうするようない指導と呼ぶべきで。

いや、嫌だっというんじゃない。

むしろありがたい。

滝ヶ原の言う通りにすれば確かに強くなる感触はある。

清竜師匠から褒められる事も多くなったと思う。

だけ…。

俺は今小学4年生で、滝ヶ原も今小学4年生で。

俺たちは同じ年で、そして俺はその横に立ちたいのに。

お前と『将棋』で戦いたい。

だけど、滝ヶ原に近づけば近づくほど、強くなればなるほど、アイツが前よりどれくらい遠くにいるのがわかって。

俺よりずっと早指しで、
俺よりずっと深い読みで、
俺よりずっと確かな大局観で、
俺よりずっと広い研究範囲で、
俺よりずっと
――俺よりずっと強い。

俺はお前の『ライバル』になりたい。

もしかすると師匠、清竜師匠よりも強いかもしれないお前の『ライバル』に。

名人の将棋を食い破った準タイトルホルダーのお前を。

滝ヶ原が、アイツが今いるのはきつと誰よりも孤独な場所だ。

名人すら届かなかつた、息も凍るような一人ぼっちな領域。

あいつが『迫真将棋部』なんて自分の棋譜をわざわざ動画にしてあげて解説するのは…研究がものを言う将棋の世界でわざわざ弱点を晒すような真似をするのは。敵に塩を送り続けるのは。他を強くしようとするのは。

あいつが誰よりも『敵』を、『ライバル』を、『勝負相手』を欲しているからじゃないか。

だから、俺がそうなりたい。

だけど今のままじゃあ。足元にも及ばない。

滝ヶ原に教えもらったことはすぐく為になることばかりだ。

だけど――お前におしられた将棋じゃお前に並び立てない。越えられない。

それじゃ意味がない。

俺が今一番勝ちたいのは、

『恩返し』をしたいのは、

『桜花』滝ヶ原 前なのだから。

そのためなら、どこまでも貪欲にさしてやる。

俺がお前の『ライバル』になってやる。